



**Tukūmi
Maniax**
■ Yasuomi-Craft ■
Vol.13



月海の衣装を露出の多い物に変更する様に命じる
最初は恥じらいを見せたが最近月海は大人しく従う。

「こ、これでは裸と同じではないか！」

似合ってるよと言うと、月海は顔を赤くして俯く

「私の体は、汝だけの物だから・・・。」

彼女をこの衣装で戦わせる事を考えると興奮する。



衣服を着る事を禁じ、裸で買い物に行く事を命令する。
始めは拒否したが、何度か裸での外出を経験していくと
今では顔を赤らめながら、進んで裸になる。

「き、今日も我が買い物に行こう・・・」
鍛え抜かれた美しい裸体を晒す行為に興奮を隠せないようだ。



臨月を迎え大きなお腹を抱える月海に
乳房とお腹を強調した衣装を着るように命じる。

「こ、この様な姿・・・汝は本当に似合っておると思うのか？」
美しく膨らんだ乳房と胸を褒めると月海は顔を赤くして
嬉しそうな表情を浮かべる。

月海の妊婦姿を鑑賞するために、衣服を着る事を禁じて
ほぼ、全裸で一日過ごす事を命じる……。

「そ、そんなに見るでない……」
流石に恥かしいらしく、表情は硬いが
見られる事自体は嫌では無いらしい……。



「こ、これで良いのか？」
月海に命じさせ、自らの足を抱え込み、俗に言うマン繰り返しをさせる。

露になったオマンコをペンライトで照らし、膣の奥まで観察する。
己の体内を男に見られる事に抵抗を感じるらしく表情は硬いままだ。



「な、何を……」
アナルにペニスをあてがうと、膣への挿入を期待していた月海は戸惑いを隠せず、不安そうな表情を浮かべる。

「そ、そこは違う……おまんこに……」
抗議の声は弱々しく、言葉とは裏腹にアナルは期待に震えている。



約1時間。。。休む事無くアナルを犯し続け
月海の直腸に大量の精液を注ぎ込む
弛緩して緩みきった穴はヒクヒクと振るえ
泡だった大量の精液を排泄している。。。。

「次はおまんこに。。。私の子宮に汝の精液を。。。」
アナルから引き抜いたペニスを愛液が溢れ出す小さな穴にあてがい
彼女を抱えるように覆い被さり体重を掛けて一気に子宮口まで挿入する。





仰向けに寝そべり、その上を月海に跨らせる。
がに股の滑稽な姿を眺めながら
硬く振り返るペニスの先端をヒクヒクと震えるアナルに狙いを定める。

そのまま腰を下ろすように命じると、ペニスが月海のアナルに
ゆっくりと飲み込まれていく。
「ふううん！お尻に入ってくる！
汝の熱くて太いペニスが我のケツマンコに入ってくるう！」

騎上位のまま激しく尻を振る月海。
きつく締め付けるアナルと絡みつく腸液で
何度も直腸内に精液が注がれる。

「どうじゃ？ 我的ケツまんこは？
汝のちんぽミルクは全部我に出すのじゃ」
月海のお腹が大量の精液でぎゆるぎゆると蠕動しているが
更に搾り取ろうと腹に大きな尻を打ちつける。



月海はペニスに手を添え、まんこに導こうとするが、臨月を迎えた月海の大きな乳房とお腹が視界を遮り、なかなか挿入する事が出来ない。

「うん……。中々入らないものじゃな……。」
狙いを外し、アナルに亀頭が触れた瞬間に、腰を突き上げる。
「ひゃあ！」

突然、アナルに極太のペニスが挿入され、悲鳴を上げる月海。
「汝！いきなりアナルに入れるとは！この変態め」



月海のアナルに挿入されたペニスは肛門できつく絞り上げられ奥では温かい直腸が包み込む。

「汝・・・覚悟はできておるのだからうな・・・
我のケツまんこで一滴残らず搾り取ってやる！」

大きな乳房と腹を揺らし、その度に汗が飛び散り月海の雌の匂いが辺りに充満する。

「もつと！もつと出すが良い！腹の子も喜んで暴れておるぞ！」



「こ、これで良いのか？」
月海に赤ん坊がオムツを換えるポーズを取る様に命令する。
おっぱいとおまんこを晒している事よりも、オムツ換えのポーズに
恥かしさを感じている様だ。

「こ、このような赤子のような格好・・・汝、何をするつもりじゃ？」
「これではまるで我は赤子ではないか！」



無防備な姿勢でされるがままの月海。
何時もの気高いイメージとは異なる彼女に興奮を覚える。
「そ、そこは……」

硬くなったペニスを取り出し、亀頭でアナルの周辺を愛撫する。

「汝……また、そこでするのか？」

「す、好きにするがよい……」

腰を前に突きだすと、ぬぷっと亀頭がアナルに飲み込まれる。
柔らかい肉を押し分け奥に進み、やがてペニスがすべて飲み込まれた。





アナルで何度も絶頂を迎え、激しい呼吸を繰り返す月海。度重なる拡張と挿入で彼女のアナルは綻びペニスも楽々と銜え込み、そのうち拳の挿入も可能になりそうだ。

「まったく……アナルばかり使いおって……
私のアナルがゆるゆるになったらどうするのじゃ」



臨月を迎えた月海の乳房とお腹は大きく膨らんでいる。
強気な彼女の表情と、母性を感じる美しい膨らみは
非対称な気もするが、とても愛らしく感じる。

「そ、そんなに見るでない……」
「このような姿……恥かしいではないか……」

いきり立ったペニスをアナルに向ける。
「そ、そこは違う！」
月海の言葉を無視し、そのまま直腸深く挿入する

「おまんこに……に汝のちんぽミルクを……」
アナルに挿入したペニスは根元まで飲み込まれる。



月海の全身に精液を浴びせ、何とも言えない征服感を味わう
大きな乳房とお腹にもたっぷりどぶっかける。

「こんなに一杯だしおって……
お腹の中の汝と我の……
ちんぽミルクを飲ませてたいのに……」






ゴム製のポンテージ衣装に身を包んだ月海に壁に手を着かせ、足を大きく開いた体勢を指示する。

「汝、このような格好させてどうするつもりじゃ？」
犬がおしっこをするような屈辱的なポーズの月海を眺め
彼女の反応を楽しむ。



月海の後ろに回り込み、唐突にペニスを突き入れる。
「くっううう！」
挿入された月海はそれだけで軽く絶頂を迎えたらしく
涎を垂らし嬌声をあげている。

「おちんぽお！我のおまんこにおちんぽが入ってるう！」
「ずぼずぼしてえ！もつとおまんこずぼずぼお！」
普段の月海からは想像も出来ない、下品な言葉を発しながら
後ろから激しく突き上げられ続ける……。



壁に手を付かせ、足を大きく開くように命じる。
臨月を迎えた大きなお腹と乳房を抱える月海に
乳首とへそにピアスを通し、鼻にはフツクを掛け
美しく整った顔を醜く歪めている。

「汝……こんな格好させおって……」
羞恥心を煽るために腋毛の処理も禁じており
月海の脇には見事な脇毛が生えている。

「んほおおお！」
彼女のまんこに、いきなりペニスを突き刺し
豚らしく鳴いてみると命令する。
「誰がそんなまね・・・死んでも嫌じゃ！」

激しくまんこをペニスで突きまくる。

「んあああー！ちんぽが！ごりごりしてるうー！」

「ぶ、ぶひい！ぶひい！ぎもちいいい！」

あの月海が下品に鼻を鳴らしながらよがる姿は
普段の彼女の姿からは想像すら出来ない。



ポンテージに身を包んだ月海を縄で天井から吊り下げる。
反抗的な表情は変わり無いが、彼女の能力を考えると
縄から抜け出すのは造作も無いだろう。

大人しく従う彼女の乳首を舌で転がし
おまんこを愛撫すると、ギヤグで塞がれた口から甘い吐息が漏れる。

A blonde anime-style girl with a muzzle and large breasts, suspended by ropes. She has a red muzzle with a silver ring, a gold nose ring, and a black collar. Her large breasts are covered in white liquid. She is wearing black stockings and black shoes. The background is a gradient of purple and blue.

吊るされた月海の前で、硬く反り返ったペニスを取り出し扱く
彼女の視線はペニスに注がれ、心なしか呼吸も荒く感じる

鈴口から勢い良く精液が飛び出し、美しく整った顔や金色の髪の毛、乳房と汚す。。。。
彼女の体に飛び散った精液を自分の臭いを彼女の体の隅々まで
染み込ませるように手で塗り広げていく。。。。

月海の手足の自由を奪い天井から吊るす。
はち切れんばかりの乳房とお腹は手足を縛り上げる事で
より存在感を増しているようだ。

まるで部屋の装飾品の様な姿で吊るされる彼女だが
整った顔の中心、鼻はフックで吊り上げられ醜く歪んでおり
脇の処理も禁じていたので、腋毛も見事に生え揃っている。





月海の美しい妊婦姿に興奮を覚え、彼女の目の前にペニスを晒す。
ペニスを扱き、彼女の体目掛けて精液をぶっかける。

「ぶひ！ぶひい！」
月海は子宮に注いで欲しかったのか
非難めいた泣き声を上げる……

「は、早く汝のおちんぽを……」
自らの尻を広げ挿入を催促する月海。
以前なら考えられない程に従順な態度に驚く

「何をしている！ 汝のちんぽを我のおまんこに入れぬか！」
少し焦らしたら月海は声を荒げる。気性はそのままの様だ……。



期待を裏切り、ペニスで月海のアナルを一気に貫く。
「そ、そこは違う！ 汝は何故にアナルばかり！」
激しくストロークすると、何時もと月海の反応が違う事に気付く

「だめ……アナルはだめなのじゃ……」
どうやら下準備を怠ったようで、ペニスの先端に硬い物が当たる。
それならと、ペニスを根元まで挿入して体を密着させて後ろから抱きしめる。
暫くすると月海の腸内に暖かい液体が溢れてくる……
何かに気付いた月海。
「汝！ 我の腹の中に小水をするとは！」



彼女の中に小便を注ぎ終わるとペニスを抜き取る。

「ダメじゃ！今抜くと出てしまう！」
彼女の抗議も虚しく、ペニスが抜かれたアナルから液体が飛び出す。

「いやあ！出るうんちがでるうう！」

ぶり！ぶび！ぶりぶりぶり！

下品な音を響かせながら、極太のうんちが彼女のアナルから排泄される。
彼女の腕よりも太いうんちが次々と床に落ち、見事なとぐるを巻いていく。



「ほ、本当にするのか」
月海には排泄を1週間禁じており、今日がちょうど1週間……
排泄の許可をもらえたのは良いが、
目の前で立ったまま出す事に抵抗を感じるらしい。

「そ、そんなに見られたら出る物も出ぬ……」



「な！？汝、なにをするのじゃ！」
開きかけたアナルに、ペニスを突き入れる。
ペニスの先端に当る硬い物を奥へ押し込み無理矢理根元まで挿入する。

「う、うんちが奥に！これでは出したくてもだせぬ……くううっ！」
月海の言葉を見殺して激しくアナルを突き上げる。
「だめ、これ以上刺激したら、うんちが！うんちでちやうう！」



ペニスを引き抜くと同時に極太のうんちがアナルから飛び出す。
ぶりゅぶりゅぶりゅ！
大量のうんちが腸内の内圧を高め、もりもりと凄じ勢いで排泄されていく。

「ダメじゃ！見るでない！と、止まらぬ！うんちが止まらぬう！」
「くううん！出ちやう、うんちがイツパイ出ちやううう！」
月海の意味とは関係なくアナルは大きく開ききり
下品な音を響かせながら排泄は続く。



最後は汚れたペニスの掃除を月海に命じる。
愛液や精液が付いたペニスに丹念に舌を這わせ
綺麗に掃除をしていく。

「汝。。。こんなに赤くなるまで我を愛してくれらるとは。。。」
月海は愛しそうにペニスを舌と唇で愛撫する。。。。」



健気に舌を這わせる月海を見てみると、嗜虐心が擦られる。

「な、なにをするのじゃ？」

彼女の鼻にフックを掛け、美しく整った顔の中心部を醜く歪ませる。

「これで続けろと言うのか……」

豚のように鳴きながら奉仕する事を命じると戸惑いながらも素直に従う

「ぶ、ぶひ！ぶひ！」

醜く歪められた鼻で鳴きまねをしながら月海は懸命にペニスの汚れを舐め取る。





口での奉仕を続ける月海の頭を掴み、
一気に喉の奥までペニスを突き入れる。
「ふごおおお！」

いきなり喉の奥までペニスを突っ込まれた月海は目を自黒させ
苦しみの余り、声にならない悲鳴を上げた。
「んごーんごおおお！」



月海の頭を掴み喉の奥に激しくペニスを突き入れる。
苦しそうにな表情を浮かべていたが、健気にペニスを受け入れる。
「ぶひ！ぶひ！ぶひい！」

豚の鳴きまねをしながら、ペニスを喉の奥で締め上げる。
ぶちゅ！ぶちゅ！
月海は唾液をペニスに絡ませ下品な音を立てて懸命に頭を振る。
すると、喉の奥でペニスから大量の精液が放たれる
「ふぼ！んぼおお！」
器官に入ってしまったのか、苦しそうにむせ返る。
それでも懸命に喉を鳴らしながら精液を飲み込もうとする。